

仏さまって本当にいるのかな？

小学2年 山口 彩羽

仏さまがいるかどうかは、だれにも分からないと思います。

なぜなら、本ものの仏さまは、見たことはないし、会ったこともないからです。

でも、先生やお母さんお父さんは、「仏さまは本当にいるんだよ。」と、いっています。

わたしは学校で、仏さまにまつわること、仏さまのみ教えを聞いたりします。たとえば、3つのみ教えの中の「み教えを聞くものは、なかよく正しくれいぎ正しくいたします。」は、友だちがかなしんでいるときやこまっているときに、「だいじょうぶ？」と、声をかけることです。先生は会ったことのない仏さまのみ教えを教えてくださいます。1年生のときみ教えがやくにたったことがあります。それはわたしの友だちがむだにアリをふんでいるのをみたときです。「小さい大きいかんけいなくみな生きている。生きているということは、心がある。」というみ教えがあったので、わたしは、「やめてあげて。」と、いったことがありました。そうしたら友だちが、やめてくれました。もし教えがなかったら、私は止めずにただずーっと見ていただけかもしれません。犬やねこは、すきだし、あったかいので、ころしませんが、虫は、にが手な人が多いので、虫にも同じいのちがあることをわすれてしまいます。み教えはそれを思い出させてくれます。小さい生きものにやさしくすることは、大きい生きものにやさしくすることにつながります。先生たちは、「仏さまは本当にいるんだよ。」と、いっているりゆうは、仏さまのみ教えは、わたしたちのよい心にいきているからです。み教えは、本当に大切なんだな。と思いました。これからもわたしは、み教えを大切に人によさしくしていきたいです。